

WCRP

7

2023

July

No. 525

World Conference of Religions for Peace Japan



会議に先立ち祈りを捧げる参加者（第44回理事会／カトリック東京カテドラル聖マリア大聖堂）

こころの扉——「未来に向けてともに歩む」白浜 満	2
第44回理事会／第26回評議員会	3
アジア宗教者平和会議（ACRP）	
執行委員会の開催／ミンダナオピースフォーラム	4～5
トルコ・シリア地震支援活動レポート	6
平和研究所 第2回研究会／第3回研究会	7
クラウドファンディング「路上で暮らす子どもがいない未来へーフィリピンの ストリートチルドレン37万人をZEROにしよう！」が目標達成！	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8



「未来に向けてともに歩む」

G7広島サミット（5月19日～21日）を前にして、WCRP主催「宗教者による祈りとシンポジウム」が、広島島の「世界平和記念聖堂」で開催されました。会場には約200名、オンラインでも世界11カ国から、約300名の参加がありました。世界の諸宗教者が、真の平和に向けて、ともに祈り、考え、意見交換をする機会を持つことができたことに、諸宗教者の一人として、大変、うれしく思いました。

G7広島サミットで、核兵器廃絶の分野のために発信

カトリック広島教区
カトリック広島教区

白浜 満



された「広島ビジョン」は、「核不拡散条約」（NPT）の体制の確認にとどまり、大きな進展は見られませんでしたが。しかし、G7の首脳たちが原爆資料館を訪問し、慰霊碑に献花されたことは、被爆者の想いが首脳たちの今後の発言や取り組みに影響を及ぼす要因になって行くのではないのでしょうか。カナダのトルドー首相は、サミットの公式日程を終えた後、個人的にゆつくりと原爆資料館を訪問することを望まれ、再訪していました。とくに世界で指導的な立場にある方々の心に根本的な変化が

なければ、核軍縮、そして核兵器廃絶を実現していくことは不可能です。G7広島サミットを機会に、新たなメッセージを発信したローマ教皇フランシスコは、次のように述べています。

「21世紀の多極化した世界において、平和を追求することは、安全保障の必要性和それを保証するための最も効果的な手段に関する考察に、密接な関係があることが、ますます明らかになっています。このような考察において、世界規模の安全保障というものが、食料と水へのアクセス、環境の尊重、医療、エネルギー源、世界の富の公平な分配などといった諸問題を包含する総合的なものでなければならぬことを考慮しなければなりません。総合的な安全保障の概念は、多国間、また政府・非政府間の国際協力を支持するものであり、これらの諸問題の間には深い相互関連があり、責任ある多国間協力のアプローチを共に採用することが必要です」

「総合的な安全と保障」構築のために、責任ある多国間協力のアプローチは、人間の心の変化を土台としています。多国間協力のアプローチの一つの次元として、世界の諸宗教者が、人々の心の中に、人類家族の共通の家（地球）を大切にし、自然と調和し、皆が協力してともに生きて行く「友愛と連帯を生み出す力」となることができると願っています。

第44回理事会

第44回理事会が6月2日、カトリック東京大司教区関口会館ケルンホール（東京都文京区）でオンラインを併用し開催された。理事23人が出席し、「日本委員会人事」「2022年度事業報告」「2022年度決算報告」「ウクライナ情勢に対する支援」「トル



大聖堂での礼拝



理事会の様子

コ・シリア地震への対応」について審議し、すべて可決された。会議に先立ち、理事、監事一行は東京カテドラル聖マリア大聖堂での礼拝に参加した。

理事会の冒頭、受け入れ教団を代表してカトリック東京大司教区の浦野雄二事務局長があいさつを行った。審議事項では、2022年

度の事業報告ならびに決算報告が行われ、質疑応答を経て可決された。また「ウクライナ情勢に対する支援」では、本年度に日本で開催を予定する第2回諸宗教平和円卓会議（仮称）について意見が交わされた。また、「トルコ・シリア地震への対応」では、災害タスクフォースを中心に実施されたこれまでの支援状況について審議を行った。報告事項では、理事長業務執行状況、2023年度年間予定、アジア宗教者平和会議、難民支援、特別事業部門、常設機関からの報告が行われた。

第26回評議員会

第26回評議員会が6月23日、東大寺総合文化センター小ホール（奈良県奈良市）で



大仏殿を参拝する評議員

オンラインを併用し開催され、7人の評議員が参加した。会議に先立ち、現地で参加した評議員、監事は東大寺の大仏殿を参拝し、北河原公敬評議



評議員会の様子

員（東大寺長老）導師のもと、読経供養に参加した。

評議員会では、受け入れ教団を代表して東大寺の上司永照執事長があいさつし、2010

年に東大寺で開催した「ARMS DOW N！キャンペーン」やこれまでのWCRP日本委員会との協働について話した。

評議員会では、「日本委員会人事」「2022年度事業報告」「2022年度決算報告」について審議され、すべて可決された。日本委員会人事で選任された役員は次の通り。（敬称略）

理事（評議員会で選任）

退任… 齋藤郁雄（神宮司廳前総務部長・神

宮少宮司）

退任… 森元亨（曹洞宗宗議会議員・東昌寺

住職）

就任… 久田哲也（神宮司廳総務部長）

就任… 来馬宗憲（曹洞宗宗議会議員・江岸

寺住職）

アジア宗教者平和会議(ACRP)フィリピン・ミンダナオ島で執行委員会の開催

ACRP執行委員会が5月23日から25日まで、フィリピンのミンダナオ島ダバオ市で開催され、アジア17カ国から44人(会場30人、オンライン14人)が出席した。

執行委員会は毎年開催されており、過去3年間は新型コロナウイルスまん延の影響



ダバオ市議会では報告する篠原事務総長



のためオンラインで開かれたが、本年は対面とオンラインを併用して実施された。開催地であるミンダナオ島は、半世紀にわたってフィリピン政府と様々な反政府系組織との紛争が勃発してきた。執行委員会の開催にあたって



は、ACRPの行動理念の一つである「宗教者による紛争和解の実践」という観点からダバオ市で開催された。

開催前から執行委員会は、ダ

バオ市のメディアや政治家から多くの注目を浴びた。それは、アジアの宗教指導者が紛争の影響が色濃く残るダバオに集い、平和構築を試みるからであった。ACRPの篠原祥哲事務総長は、5月21日に記者会見、22日にはダバオ市議会で執行委員会が同市で開催される意義について報告した。(写真上段)

5月23日は歓迎夕食会が開かれ、ダバオ市のセバスチャン・ドゥエルテ市長の代理としてテムジン・オカンポ市議会議員が出席し、ACRP執行委員会に対してのダバオ市による全面的なサポートが表明された。

5月24日に開かれた開会式では、WCRP国際委員会のアッサ・カラム事務総長がビデオメッセージの中で、ACRPはWCR



開会挨拶：ACRP カーヒル実務議長

ル実務議長は、ACRPは現在、フラッグシップ・プロジェクトなどにおいて活発に活動を展開しているが、これに加えて、Positive Peace & Asian Spiritualitiesといった新たな考え方にもとづく活動を実施していきたいと語った。

開会式の後には、ACRP役員構成の確認、東ティモール、フィジー、シンガポールなどの国内委員会の状況説明などが行われた。そして、篠原事務総長より、2022年の活動総括と2023年の活動方針・内容について報告があった。

WCRP日本委員会からフラッグシップ・プロジェクトのために3000万円の資金助成が行われたことを受けて、2022年に六つの地域で活発な事業が実施されたことが報告された。そして、2023年は、さらに新たな地域で、フラッグシップ・

Pの母なる組織であり、有意義な活動を行っている、執行役員を称えた。あいさつに立ったACRPのデスマンド・カーヒ



ACRP 執行委員会

また、2023年にはACRPの青年、女性ネットワークをより一層強化することが決まった。青年ネットワークのAP IYNは、今後3年間の将来構想である

プロジェクトを立ち上げていくことが共有された。また、昨年から子どもや女性への暴力防止のために、ACRPとユニセフとの合同事業が南アジア地域で展開されていることの報告があった。この事業によって、南アジアのACRPの国内委員会が、実際に暴力を抑止する行動を行っていると同時に、それぞれの国内委員会の強化が図られ、活動資金調達にもよい影響がもたらされていることの成果が示された。また、パキスタン、ネパール、バングラデシュなどの国において、SNSを用いた暴力防止への啓発活動も活発になった。2023年は、このユニセフとの合同事業を南アジアのみならず、東南アジアや太平洋地域にも広げていく方向性を確認した。



ACRP スペシャルアドバイザーに就任した根本師

の重要性を訴えるキャンペーンを実施することとなった。女性ネットワークのAPWOFNは、人身取引防止、気候変動への取り組み、そして平和構築の事業を継続的に実施する。

また、2026年がACRP創設50周年であり、この年に第10回ACRP大会の開催が見込まれていることから、2023年中に、大会に向けた準備を開始することが確認された。

人事事項として、根本信博師（立正佼成会参務）のACRPスペシャルアドバイザーへの就任が決まった。

会議2日目の5月25日には、各国委員会の活動報告が行われた。それぞれの委員会には、コロナ禍においてもオンラインによる活動を積極的に行ったことが報告された。また、子どもへの暴力に対するワークショップの開催や、気候変動対策、諸宗教の相互理解などの取り組みを精力的に行った。

「APIYN アジェンダ2026」を発表し、核兵器廃絶と人間の安全保障

ACRPミンダナオピースフォーラム

ACRPは5月25日、ミンダナオ紛争の和解に向けた「ACRPミンダナオピースフォーラム」を開催した。ACRPの執行委員をはじめ、フィリピンのイシドロ・プリシマ大統領顧問やカトリックのオランダ・クベド枢機卿らミンダナオの宗教指導者など約100人が出席した。

会合では、紛争が激化した地域の宗教者による信頼醸成の重要性や青年層の暴力のトラウマ緩和の取り組みの必要性などについて話し合った。そして、会合の最後に宣言文が発表され、異なる宗教間の対話交流の促進や貧



ミンダナオピースフォーラム

困地域における人道支援などACRPのミンダナオ和解に向けた新たなプロジェクトの実施が発表された。

トルコ・シリア地震支援活動レポート

WCRP日本委員会が財的支援を行った団体より活動レポートが寄せられた。

■認定NPO法人パルシック

2023年2月6日、トルコ南東部のシリア国境地域でマグニチュード7.8の地震が発生し、パルシックは、発災翌日から寄付を呼びかけ、シリアでの緊急支援を開始しました。

シリア北部を襲った地震により、シリア国内では5900人以上が亡くなり、被災者は880万人に上ります。同じ被災地のトルコと大きく状況が違うのは、シリアは2011年に発生したシリア危機以来、内戦状態にあるという点です。被災地のシリア北部は政府支配地域と反政府支配地域が接する境界地域にあたり、発生直後から、政府の支配が及ばない地域への支援の遅れが指摘されています。この地域では震災前から数百万人が国内避難民となり、住民の大半が国連などの支援を受けながら暮らしていました。さらに、地震により35万人が避難を余儀なくされ、被災者は二重・三重の苦しみを抱えています。



テントに食糧バスケットを持ち帰る家族



パスタ、油、豆、缶詰などを配付

パルシックは提携団体を通じて、地震により家や仕事を失った被災者と受け入れているホスト・コミュニティ435世帯に食料バスケットを配付しました。配付を行った難民キャンプは、内戦により元々避難生活を続けていた国内避難民に加え、多くの地震被災者を受け入れ、食料不足が深刻になってい

ました。さらに、震災後はNGOの支援が地震の被害が最も大きいトルコ国境地域に集中し、食料支援が止まっていました。そのような状況下で食料バスケットを配付することで一時的な食へのアクセスを確保することができました。配付の日に、食料バスケットのトラ



取りに来られない家族には、スタッフが配達

ックがキャンプに到着すると、キャンプで生活する家族がトラックの周りに集まり、安どの表情をしていました。

「配付があるまでは、キ

ャンプ内にいる親族から、おすそ分けをもらいながら生活をしていただけ、他の家族も食料が足りない中、申し訳ない気持ちがあった。食料バスケットを受け取り、しばらく自分たちの食事が何とかかなりホッとした」という声を聞きました。

世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の皆さまから頂いたご寄付で多くの人に支援を届けることができ、本当にありがとうございます。まだまだ復興には長い時間がかかりますが、被災者たちの当たり前前の生活が一日でも早く戻るように、パルシックは復興に向けて、できる支援を続けていきます。引き続き被災地の人びとに心を寄せて頂けるとうれしいです。どうぞよろしく願います。

平和研究所 第2回研究会

金子 昭所員

平和研究所の第2回研究会は5月23日、専門メディアセンター（東京・杉並／オンライン併用）で開催され、金子昭所員（天理大学おやさと研究所教授）が「人間性とその回復に関わる問題領域の再検討」をテーマに発表した。

金子所員はまず、「人間性とは、人間をして人間たらしめる性質・本質」と指摘。さらに、人間性という言葉には複数の意味が内在していると、①あるがままの人間の本性、人間の自然なあり方②あるべき人間の理想、人間を高次の人間たらしめる本質③人間の基本的権利、人権④集合名詞としての人類、全体としての人間⑤決して侵してはならない尊厳ある人間のありよう、人道性——を挙げた。

宗教における人間性としては、キリスト教の「隣人愛」、仏教の「同体大悲、無縁大慈」などがあたるのではないかと述べた。

また、人間主義Ⅱヒューマニズムには、「人間がより人間らしい生き方ができるよう、人間性を促進させる積極的側面、すなわち、もともと人間に備わっている人間性をプラスの方向に伸ばしていく側面」と、「人間がいま陥っている非人間的な境遇から人間を助け出すよう、人間の尊厳と人権

擁護の思想として展開する、すなわちマイナスな部分をなくしていく消極的側面」の二つの側面があるとし、この二つが相まって「ヒューマニズムの実践思想となるのではないか」と語った。

一方、ヒューマニズムの対極として戦争を挙げ、平和な時代にヒューマニズムを語るのには誰でもできるが、実際に戦争になった場面では、兵士が敵を殺さなくてはならないという不条理な状態に陥ってしまうと述べ、戦争時における「人道に対する罪」を解説しながら、戦争犯罪を裁くための国際法規的規準などを紹介した。

最後に、「人間性の擁護者としての宗教者の役割と課題」として、「宗教者は何よりも『平和をつくる人』でなければならぬ。したがって、基本姿勢は非暴力、非服従、すなわち武力介入には加担しない」という姿勢を示した。そして「ただし、宗教者も常に自己反省をしながら人間性の擁護者として、自らの役割を自覚していかななくてはならない」と述べた。

平和研究所 第3回研究会

森 伸生所員

第3回研究会は6月27日、専門メディアセンター（東京・杉並／オンライン併用）で開催され、森伸生所員（拓殖大学イスラ

ム研究所所長）が『イスラームの食規範とハラール認証状況』と題して発表した。

森所員は、イスラームの儀式的信仰行為の一つにラマダーンを挙げ、「ラマダーン月の齋戒は1年に1度、1カ月にわたって行われ、飲食などを制御することで自制心を養い、信仰心を深める重要な実践である」と述べた。そして、ラマダーン月の終わりにはムスリムたちが共に祝う断食明けの祭りがあり、これは「齋戒が終了し、互いを祝福し合うためのものであり、共同体としての絆を強めるための重要な行事だ」と語った。

また、イスラームの食の作法に言及し、①「アツラーの名によって」と唱えて食事を始める②飲食後にはアツラーを讃美する③食事はグループでとることを推奨④右手を使って飲食する⑤過食や少食の注意⑥合法（ハラール）で良い（ハライブ）を食す——をそれぞれ解説した。

その後、⑥で示されたハラールについて詳述。「水棲動物はクルアーン（イスラームの啓典）でハラールとされているが、一部の法学派に見解の相違がある」「陸棲動物で禁じられているものもあるが、極度の飢えなどの緊急事態の場合は罪にならない」など、幅広い食の規範を紹介した。

さらに、ハラールには多種多様な認証規格があるが、信徒個々人の信仰によるハラール規定が同時進行しているとも述べた。

クラウドファンディング「路上で暮らす子どもがいない未来へーフィリピンのストリートチルドレン37万人をZEROにしよう!」が目標達成!

アジア宗教者平和会議（ACRP）東京と認定NPO法人アジア・コミュニティ・センター21（ACC21）が4月21日から5月31日にかけて実施した同クラウドファンディングは、延べ108人・団体から224万1000円の寄付を頂き、200万円の目標を達成することができました。寄せられた浄財はACC21の「路上で暮らす若者の自立支援」と認定NPO法人核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の「路上の子どもの予防と早期介入のための基盤構築」の各事業で活用されます。

クラウドファンディングHPより



また同時に呼びかけが行われた2030kmを目標とした応援ラン&ウォークの取り組みでは、38人にご参加を頂き、合計3

278・66kmに達しました。

キャンペーンの最終日にあたる5月31日には、「路上で暮らす子どもがいない未来へ」クラウドファンディング終了直前トークライブが開催され、最後の募金の呼びかけが行われました。その直前にマニラを訪問し、ストリートチルドレンの現状を視察したACRPスタッフからは、子どもたちが苦境から立ち直るには、外部からの継続的な支援が決定的に重要との報告がありました。

ご協力を頂いた皆さま、誠に有難うございました。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

稀茸（きせき）



事務所の観葉植物の鉢に、発生してすぐの幼体はその姿に似ていることから「お釈迦さまのキノコ」と通称されるコガネヌカラカサタケが生えました。短命であることから、

奇跡のキノコとも言われ、「幸せを呼ぶ」「願いが叶う」という花言葉がついているそうで、WCRPの将来を予見するようです。

WCRPの活動

《7月》

- 1日 人身取引防止タスクフォース オンライン学習会
- 5日 人身取引防止タスクフォース第1回会合（オンライン開催）
- 10日 災害対応タスクフォース第1回会合（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）
- 14日 気候危機タスクフォース「いのちの森安全祈願祭」（埼玉・所沢）
- 20日 女性部会第2回委員会（オンライン開催）
- 22～23日 和解の教育タスクフォースセミナー（東京・国立オリンピック記念総合青少年センター）
- 24日 平和研究所第4回所員会議・研究会（オンライン開催）

掲載内容の無断転載を禁ず。